

第82回 連携会議記録

日時	2017/ 6/ 23 13:30~
会場	市庁舎 402室
参加者数	15 / 23

会議の記録

協議題1 2017年度各グループ活動計画について

<予算要望グループ>

今年は学校徴収金班と学校財政班を分けて取り組みを行う。保護者負担軽減を求めて活動を行い、要望書づくりを行う。

<調査研修グループ>

事務職員が関わる業務について実務交流のような感じでできれば(夏季研修会に向けて何か考えていく予定)就学援助の手引きの更新は制度変更があったので、それに合わせて行いたい。備品台帳については、備品管理の手引きをホームページに掲載済。

<研究グループ>

今年度新採用の方も多く入ったので、領域実践シートを一度休んで各校の予算編成・運営計画の交流をしたい。

・協議題2 「平成30年度 石狩市教育予算要望書」に向けた具体的な作業について

基本的には昨年度の課題を活かして行う。配分予算については配分調整を行うことができた点が実績として挙げられる。(課題として: 今年度の予算の消耗品の細節内訳が細分化されずに一括で来ている点に関して議論あり)

実験材料費はどの市町村においても課題で、学校徴収金の実情が見えてきているのが現段階の実績。公費化するにはまだ課題があり、例えば購入物品が教育課程上必要なものか、個人に還元されるものではないか精査を求められるという部分が課題としてある。(個人還元物を公費化しないという概念を認めることに関しては議論があり、氏名入りゴム印を公費化するまでに何年もかかっているが、先日算数セット全校分購入した件で学校備え付けにすると説明したところ購入できた実績がある。要望を出す中で解決していく部分もあるのでは。)

予算要望書作りをするまでの問題点として、現状では、安全面で問題が発生しているものの予算計上に留まっていることや、新しい取り組みを行うに当たって予算が必要という認識が薄い(例えば学力向上のための取り組み等で印刷コストがかかること)、政策予算としての要望が今の所ない点が挙げられる。予算算定基準が昨年度ベースになっており、予算額を上げるための具体的な項目がないなど、財政課との折衝材料となっていない。

例えばICTの施策について第1期はPC、第2期はタブレット、電子黒板を整備することになっているが、ICTについて予算化されていないなど。

(備考: 学力向上のための取り組みで、その分の予算は配当予算に組み込まれているという説明が校長会でなされているが、配当予算の総額が下げられているので配分の意味がなくなっている。印刷コストを積算し、予算として計上してもらうのがいいのか、現物として支給してもらえ

るのがいいのかは悩ましいところ。こういった施策について予算要望する方法はあるが、政策予算を要望するために新しいプログラムを組むことに伴い公開研修や委員会への報告が必要になるが、その余裕が教員にないため現場は対応しきれていない。)

今年度の取り組み

現在予算要望書を学校ごとで出しているが、学校教育課と総務企画課の担当課題ごとに分けて要望し、1課題に対して学校全体の一覧表が出て来ると要望を受ける総務企画課としても利便性が増すため良いのでは。今年の予算要望の反省に書いて次年度から変えていければいいと思っている。予算要望書完成後に、新しい様式について準備。委員会で財政に提出用の様式を参考とする。

事務職員は7月7日までに予算要望の調査を提出。

・実践交流

2016年度花川中学校の財政決算報告及び現状と課題－花川中学校の職員会議で提案している資料について交流。

工夫している点として、市配当予算の執行報告で、市経理の配分と徴収金を併記している点や、印刷費の項目に印刷関連費の割合を記載している点、学校徴収金の項目に市費での支出金額(奨励プログラムも含む)を掲載する点などがある。

奨励プログラム補助金、外部指導者補助金、石教振の生徒指導費などについても掲載するなど、動いているお金の全てを資料の上で明らかにし、全体のうちどれくらいの割合なのか、どこからお金が出ているか、という情報公開をしている。

財政計画には執行方針を明記し、配当予算の執行計画には説明として各予算の購入予定物品などを担当者と面談して結果を書いておくことで、後日購入物品の検討をする際に役に立つことも。

進路費の消耗品については学校で購入すると明記。受験情報誌も公費で購入。

学級によって必要なところと、そうでないところの差があるので、クラスごとの予算は配分していない。学級のハンガーは学級費で購入していたが、施設の備え付けとして購入し、学級費を減額する方向で進めた。学校徴収金の内容、補助金関係も徴収見込みで掲載している。

今は財源ごとで載せているが、教育課程など、分野ごとの予算提示があってもいいのかもしれない。このときはこれくらい使えるという形の予算提示をしたほうが教員の立場からはわかりやすいかもしれない。

・連絡事項